

## 令和2年度第1回備前市パートナーシップ推進会議要点録

日時：令和2年6月30日（火）

午前9時30分～

場所：市役所 3階 大会議室

出席者：（委員）9名

（事務局）市民協働係

（担当課）産業観光課、社会教育課、社会福祉課

欠席者：（委員）4名

### 1 開 会

### 2 市長挨拶

### 3 委嘱状交付

### 4 議 事

#### （1） 会長及び副会長選出について

#### （2） 条例の運用状況について

資料に沿って説明

委員：運用状況の市民意識調査では、何人に質問をして何人から回答を得たのか記載してほしい。

（回答率がわかるように）

事務局：担当課と相談し記載方法を工夫する。

#### （3） 令和元年度協働事業の振り返りについて

##### 【備前観光協会】

##### ○質問

委員：コロナの影響で観光客の増加が見込めない。地元を知ってもらうために小・中学生に夏休み前に配布し家族で訪れるきっかけにしてほしい。

委員：清掃活動など地域の人に参加して、観光客が来る前に地域の人が大好きになるようなことが先ではないか。そのためには、地域の人頑張りが盛り上がってほしい。

委員：マイクロツーリズム（日本人が国内旅行への回帰を喚起すること）観光協会と産業観光課が中心となって備前市から1時間程度で行ける範囲のツアーを企画してはどうか。そして、今度は近隣市町村の人たちに備前市に来てもらう。などの仕掛けを考えて備前市の活性化につなげてほしい。

観光協会：パンフレットは約1万部作成（地域おこし協力隊が撮影）し、東京や関西などにも依頼している。八塔寺はロケが増えた。小中高校生が市外に出ても備前市を自慢できるようなパンフレットを作成したい。

## 【東備子ども NPO センター】

### ○質問

委員：担当課が積極的に関わっているから上手にできていると思う。

県の協働事業の一貫として関わっていくことになった経緯は何か。

東備子ども：相談員が県内各地で保護者の相談を受け交流を図っていることから、県民局に提案し県の協働事業としても活動していくことになった。

委員：（発達障がい）潜在的で見えない家庭への支援はどのようにしているのか。

東備子ども：顕在化している家庭への声掛けもナイーブなため、潜在的な家庭への直接的なアプローチは非常に難しい。窓口を広げ先生たちにも協力してもらい、ひとつひとつの声を拾うしかない。

社会教育課：この事業だけでは難しい。市の事業全体としては、就園前の子どもは保健課が実施する検診で気づいたことは園と連携し支援できるようにしている。就学した子どもへは先生たちに気づいてもらう。その中で協働事業を一つの核としてそれぞれのライフステージで支援し考えていけるようにしていきたい。

委員：縦のつながりだけではなく、様々な相談窓口があるので横のつながりを広げ事業の周知をしてほしい。

## 【ふれあいサポートちゃていず】

### ○質問

委員：事業が上手にできなかった要因として、最初の担当課決めのすり合わせができていなかったのではないか。

事務局：事業始める前に本当に社会福祉課だけでいいのか考える。事業者と担当課をつなげて一緒に会議を2回ほど行い複数課に事業内容をみてもらい決めている。結果として社会福祉課になった。今年度は中間報告で事業の進捗状況を確認していきたい。

委員：複数課との連携は可能なのか。

事務局：できる。

ちゃていず：行政だけではなく、様々な事業者との連携もできていなかった。協働ということで、行政だけではなく同じような活動をしている事業者との連携を図る必要があると感じた。

## (4) 令和2年度協働事業について

資料に沿って説明

## (5) その他

委員：振り返りシートを担当課側と事業者側が見開きなどにして一目みてわかるようにしてほしい。（平成25年開催時に使用の資料を参考に。）

事務局から今年度の推進会議の日程、SDGs 研修会の案内

## 5 閉 会

副会長より挨拶